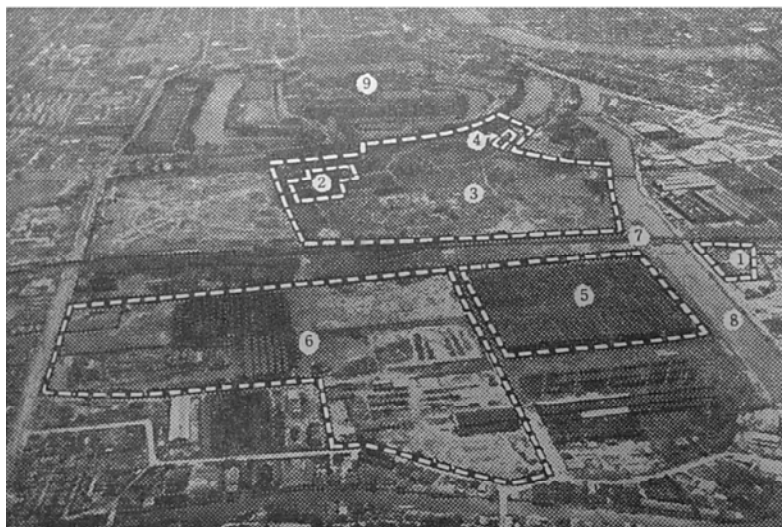




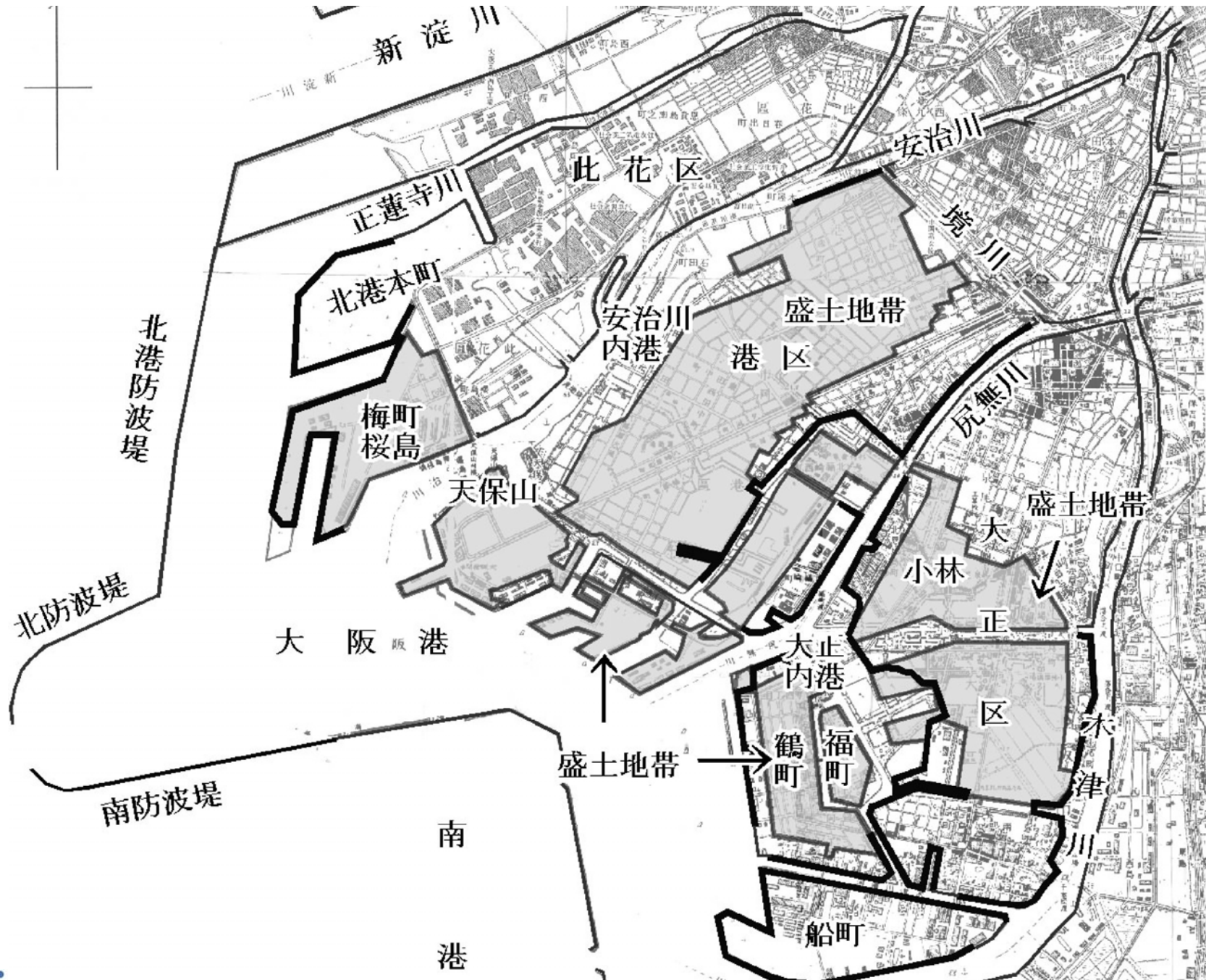
“アパッチ族部落”のたたずまい。向うに城東線の電車と日生球場のナイター設備がみえる（大阪市城東区中浜一丁目）



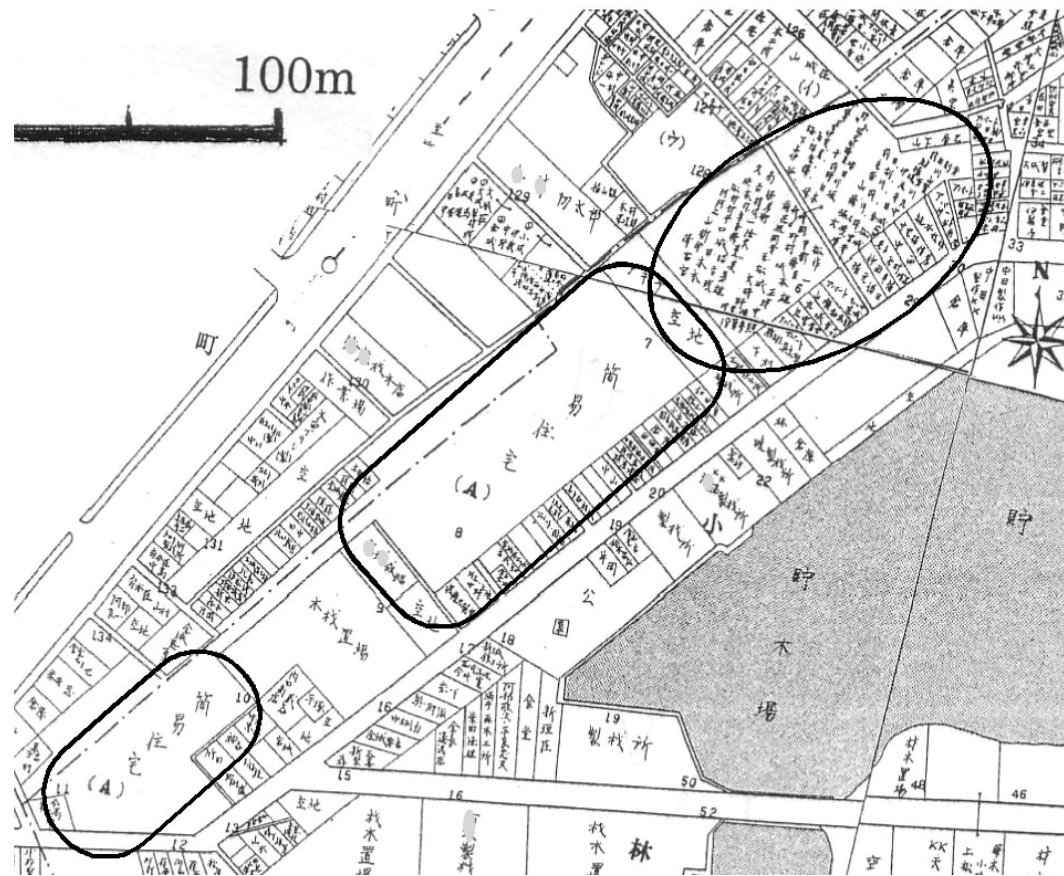
旧造兵廠付近 ①アパッチ部落②旧造兵廠第二六旋倉庫③大阪市公園予定地④近畿財務局杉山分室⑤旧造兵廠第二旋工場⑥大阪市交通局車庫敷地⑦城東線⑧平野川⑨大阪城



- もうひとつ忘れてならないのは、昭和20(1945)年8月14日の空襲で壊滅した大阪砲兵工廠の跡地の鉄などのスクラップ持ち出しを果敢に行なった通称「アパッチ族」をめぐる出来事である。その舞台は当時の城東線、現在の大阪環状線大阪城公園駅の近傍であった(図9B-4 3分の2頁大)。昭和25(1950)年ごろ平野川沿いの低地の焼け野原に居ついたひとりの老婆が土地を切り売りしたことで、周囲にバラック集落が広がる。後に真の所有者が現われたものの、住民とのあいだで暫定使用が認められたことなどにより、都市雑業、零細工場労働者のバラック地区として存続する。ところが、昭和30(1955)年ごろからはじまった平野川堤防の改修工事にともない、工廠跡地に入浴できるようになる。工廠の跡地には膨大なスクラップ金属が残されており、それらが高値で売れることに目を付けた人びとが大量に流れ込んでくる。
- 在日の人たちが主にすんでいたバラックに大勢の金属掘り目当ての人々が流れ込んだのである。この金属の夜陰にまぎれた掘り出しで、跡地を警備する守衛や警察による摘発を受け、その攻防戦から身を守るための合図が当時ちょうど封切されていたアパッチ族の映画に似ているということで、アパッチ族となづけられる。マスコミなどもこの攻防戦をアパッチ族という名称を使いながら書き立てることになる。昭和30年から34年にかけての出来事であった(写真9B-1 2分の1頁大)。
- マスコミの報道の中で、1958年7月31日から8月2日に朝日新聞夕刊で連載ルポルタージュが行なわれるが、その名もずばり「アパッチ族」であった。しかしその後の攻防戦で犠牲者を多く出すことになり、かつ近辺の工場もその対象とされ始め、法律的にみて窃盗団という汚名と、世間からの孤立という事態に、最終的には、1959年8月にアパッチ族の解散となる。ラジオでも1959年3月に「アパッチとやぶ医者」、小説家開高健の「日本三文オペラ」(『文学界』1959年1月1日号～7月1日号、7回連載)の舞台ともなる。小説とは言え、その舞台が、他に、新世界、ジャンジャン町、京橋駅付近などであり、モツ料理をほおぼるアパッチ族というラインが浮き出し、またこのアパッチ族解散に手を尽くしたのが、釜ヶ崎の赤ひげとも呼ばれた医師、本田良寛であり、そのことは自著の『につぼん釜ヶ崎診療所』(朝日新聞社、1966年)であったことも偶然とは言え、そしてその著書にもかなりの頁をさいて、実際にアパッチ部落の患者を往診したり、最後には部落の解散に助っ人したことを経験に、当時のことを触れている。

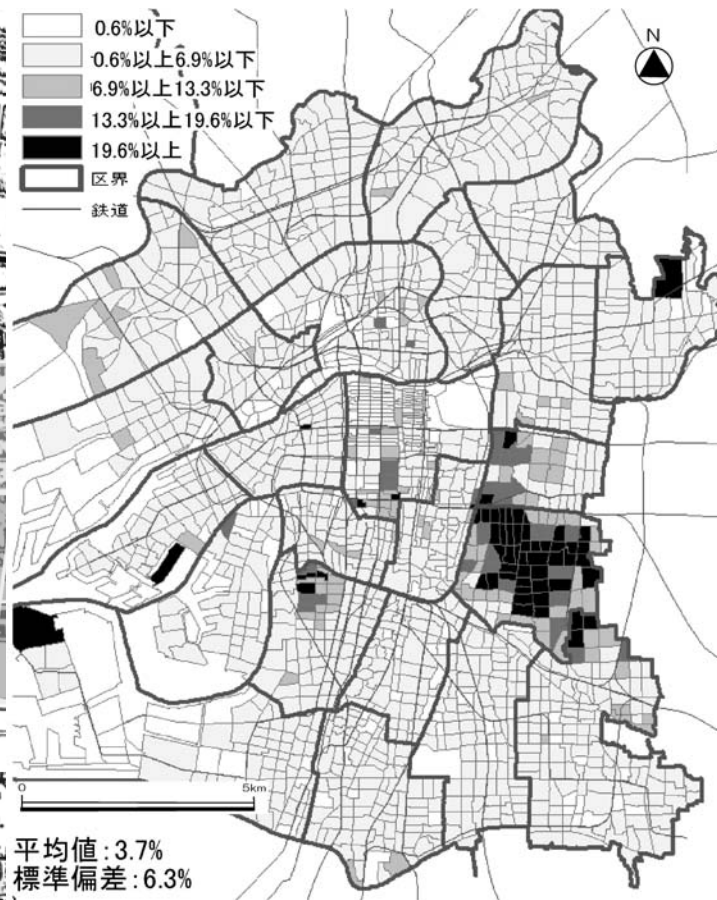
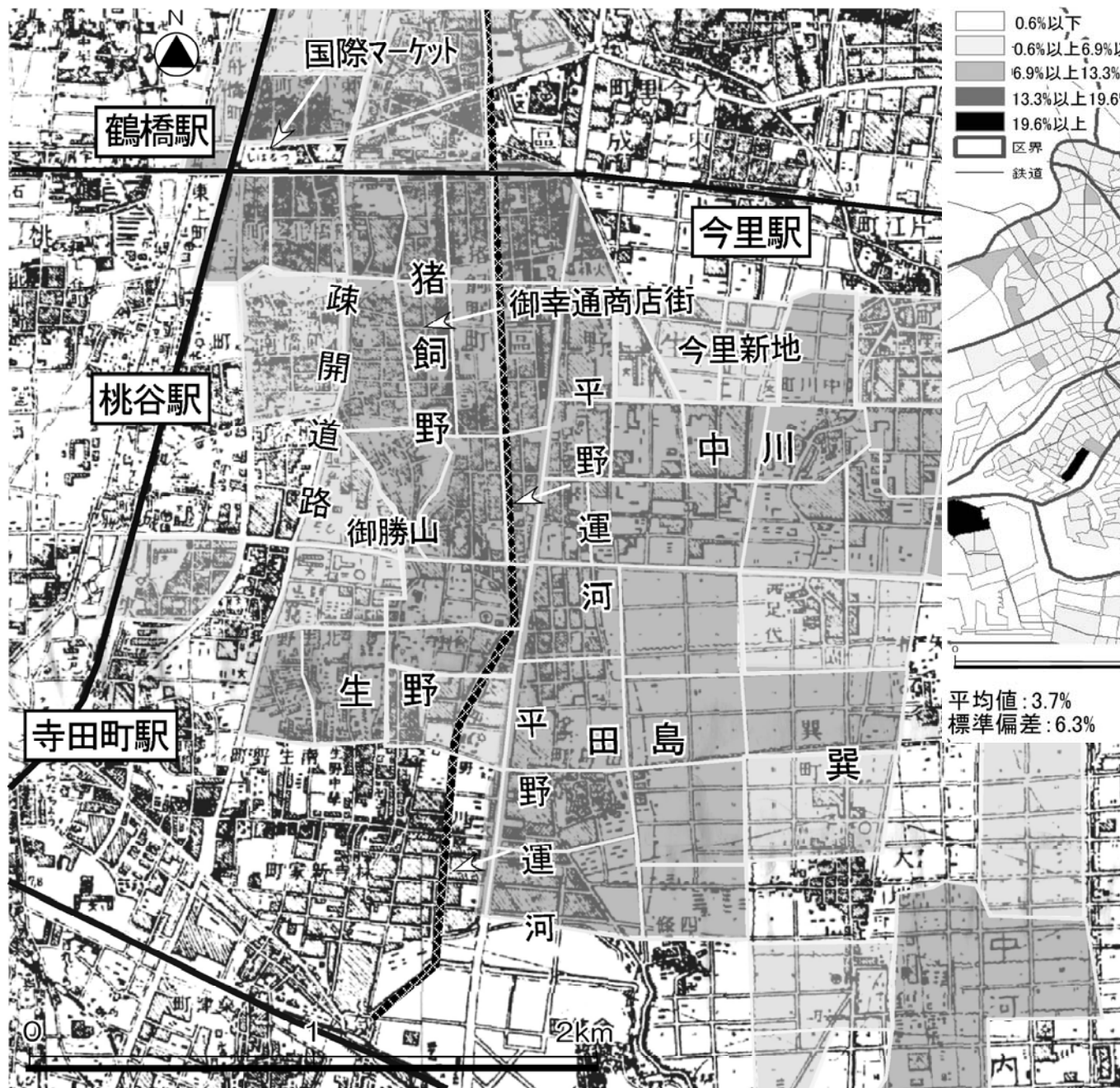






大阪市の南西部、大正区の片隅に“沖縄スラム”とよばれる一角がある。大正区小林町。大阪湾にそそぐ尻無川口にあるこの一帯は、もともと、貯木場と製材所の多い材木の町であった。それが、戦災と昭和二十五年秋のジェーン台風で壊滅した。大手の製材所や材木商は、となりの住吉区へ移った。市の区画整理事業で造成されたままの空地が、そこに残り、ゴミがつもり、草がのびて荒れ放題。再開発が進められている大阪の中で、忘れられている地域である。ジメジメした湿地帯の上にひしめくバラック。そこに約千五百人の人が肩を寄せ合って生きている。そのうち約三割が沖縄出身者だ。

表通りから、一步路地へ踏み込むとバラックの密集地帯だ。長さ約四百メートル、幅百メートル前後の細長い土地に四百世帯が住み、廃材を打ち合わせただけの軒先をぬって迷路で入り組んでいる。バラックの床下をドブが流れ、あふれた水は家の土間へ流れ込む。ちょっと雨がふれば地区全体がドロにぬかるみ、一向に乾かない。床上浸水は年に二、三回は必ず起きる。そして町をおおう下水とゴミの腐った匂い。ほとんどの家は一間だけ。炊事場があるのはいい方だ。自分の家に水道の蛇口があるのは、全世帯のやっとなり半分。便所さえも共用のところが多い。火事になったら致命的である。地元の消防署も「火を消すことは不可能。人命救助だけを考えているが・・・」と診断する(朝日新聞、1968年7月15日)。



平均值: 3.7%
 標準偏差: 6.3%

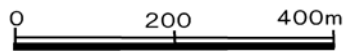


- 0.6%以下
- 0.6%以上6.9%以下
- 6.9%以上13.3%以下
- 13.3%以上19.6%以下
- 19.6%以上
- 区界
- 鉄道



地主や市当局から不法占拠といわれ、きびしく立退きを迫られているが、これを一口に不法といわれるべきものだろうか、戦前汗と涙で築き上げた住まいが、戦争戦災で、一切を失い、残ったのは冷たい差別であり、西浜も大国町に勢力を奪われ、落ちぶれた街になってしまった。ましてや終戦後の混乱で、地主もわからず位置からバラックと建て、水を掘り、道路を広げ、焼け跡を清め、魂のこもった血と涙の結晶である現在の家、これを世間からは無慈悲にも不法占拠と呼ばれるのだが、戦災で無に帰してから、西浜では3000世帯、開出城で3000世帯まで街が復活したが、半数は不法占拠となっている。このような街にしてしまった冷たい差別の中で、もっとも大きくはっきりしているのが、大阪市の仕打ちである。焼けた1万戸に対して、わずか100戸の応急住宅だけであり、最近建設され始めた住宅には入居できない。

- 都市計画行政でも、敗戦後12年間西浜の復興をお守りしてきた者が、不法占拠という無法者にされてしまう。市民税も固定資産税も払い、共同募金にも協力し、防犯協力員にもなり、隣組もつくっているにもかかわらず、水道や清掃は来ないし、金融や市営住宅入居の資格がない。火のつくような立退きを迫られている500世帯は西浜を離れて、どこにも行くところはなく、再び不法占拠を繰り返すばかりであり、物乞いを余儀なくされる人も出てきている。ぜひ鉄筋住宅やブロック住宅に住めるように念願する。すでに京都市や兵庫県では部落の人たちに適した市営住宅があてがわれている。大阪市の民生局は部落対策にあたっていると聞かすが、同じ屋根の下の建設局は部落民を苦しめているとしか言いようがない。要するに不法占拠の問題は、不真面目で無茶な人間がやっているのではなく、西浜が部落であり、部落差別が根強く残され、このような事情があるのに、十分な部落解放の方針を持たずに、西浜で住宅建設と都市計画を推し進めている大阪市政には、重大な責任がある



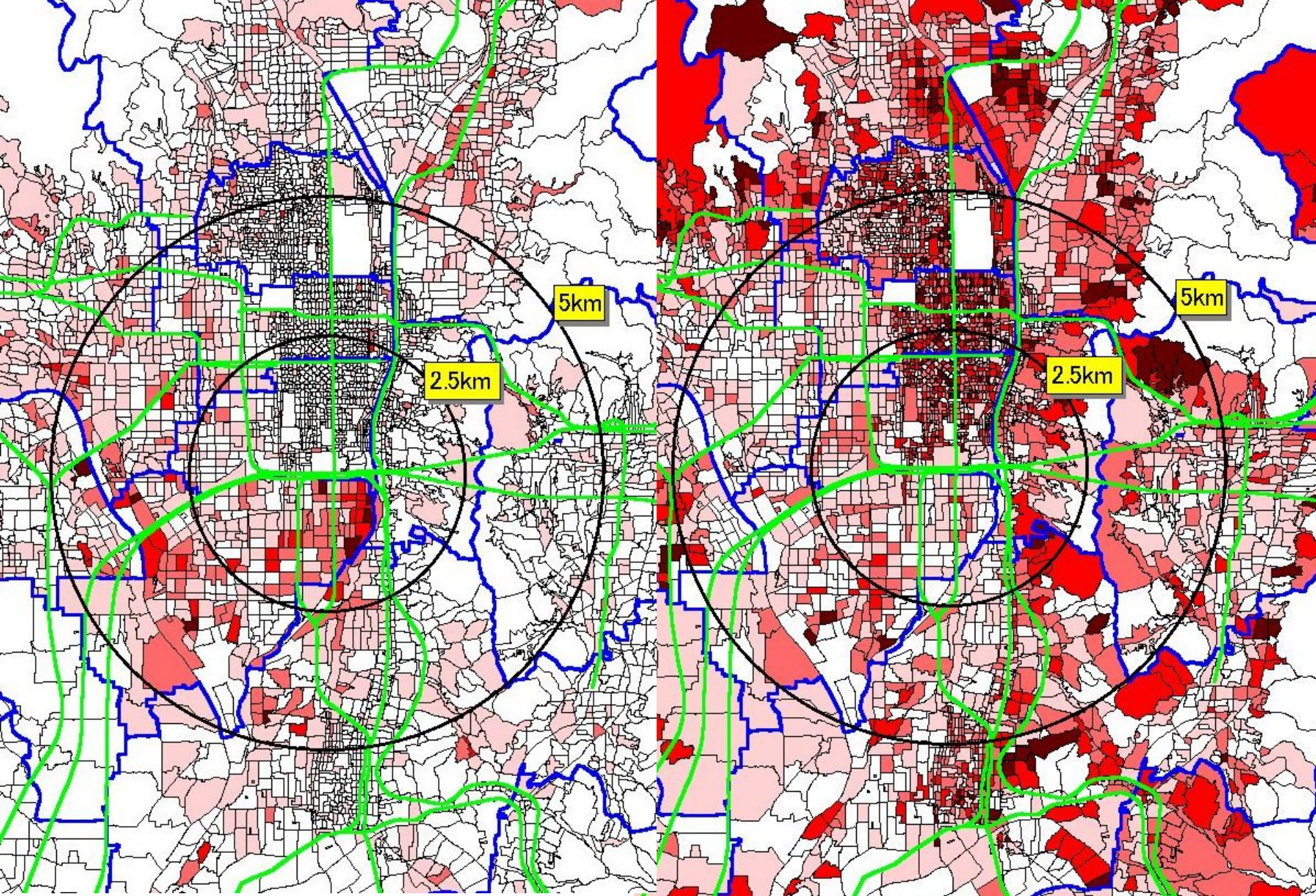
昭和37(1962)年 七条通

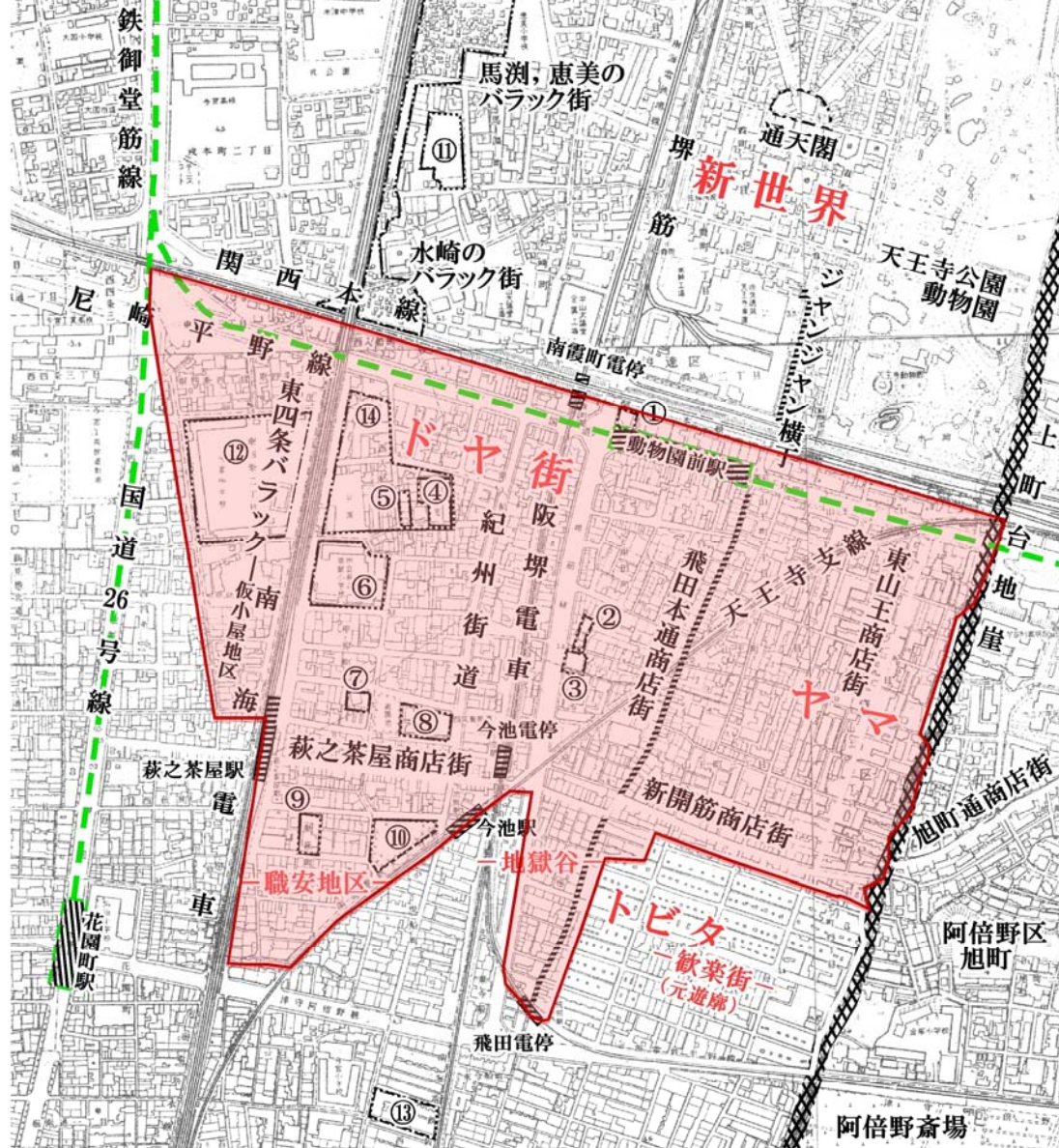
昭和26(1951)年



上図:1万分の1地形図
昭和26(1951)年測図
「京都南部」図幅

- 戦後、この「空地」にスクウォッターというかたちで、多くの移住者が続々と流入し、空地がバラック地帯に変わりはじめ、ここに小説に描かれるような密住状況が生まれることになる。「目やに・とうそう、果てはみっちゃのはなたれ子たちが、ほとんど裸体に近い風俗でたわむれる空地があり」、「昨日のぞうもつは仕末もつかず片隅にハエのちょうりょうにまかされ切って、異臭が鼻をつく」、「ドブロク密造所の経営によって部落の賤民がうるおされ」、「全部落は部落の生命線としてのドブロク密造所を守るために立上った」という描写は、昭和27(1952)年1月に京都府部落解放委員会が出した「吾々は市政といかに闘うか—オールロマンス差別糾弾要項」に掲載された「特殊部落」の文章を引用したものである。この描写は実際には部落のみならず、朝鮮人のバラック居住状況も捉えており、小説とはいえ、当時の地区の状況を活写していた





このような中、社会状況は、日雇い労働をめぐる手配師による搾取の問題、売春防止法によって発生した違法売春、それに暴力団がからむという構図が1950年代後半に顕著に見られるようになってきた。木賃宿街と近接する遊郭からなる鉄道に囲まれた特異な市街地に対して、メディアはどん底社会釜ヶ崎、東洋のカスバというような名称を与え、負のイメージを流布させてゆく。当時の釜ヶ崎に対して、特に社会学を中心に都市病理的アプローチからさかんに調査がなされたが、その調査で掲載された地図を、描きなおしたのが図10A-4(1頁大)である。新世界、ヤマ、トビタ、そしてドヤ街にそれぞれの地理的表象がこめられつつ、この全体が、釜ヶ崎、あるいはより広範に西成と称され、独特の空間として、捉えられるようになった。これに対して地元では西成愛隣会を立ち上げ、事態の改善に乗り出したのが、1960年であった。表10A-2にあるように、この年に民生局主導で、戦後はじめての行政施策が、西成愛隣会の結成など通じて着手され、それは暴動翌年の愛隣会館、愛隣寮の開設になどにつながる。同時に1961年8月の暴動により、多くの一連の施策が一挙に動き始めた。そしてその最終局面が、表10A-2にあるように1970年のあいりん総合センターと、翌年の市立更生相談所の登場にあった。ここにあいりん体制が完成し、あいりん地域が登場する。

- ①市立愛隣寮 ②市立西成市民館 付設保育所 ③市立愛隣会館 あいりん学園(小中学校)
- ④市営今宮改良住宅 ⑤旧四恩会館 乳児院→初代西成労働福祉センター
- ⑥萩之茶屋小学校 ⑦旧済生会今宮診療所→西成市民館 ⑧西成警察署 ⑨西成職業安定所
- ⑩東萩公園(三角公園) ⑪馬淵生活館 ⑫今宮中学校 ⑬大阪自彊館
- ⑭後のあいりん総合センター敷地(愛隣住宅改良地区指定)



マイノリティの
三日月地帯